

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書
HUSA (Hiroshima University Study Abroad) Program Report

記入日		2020年 5月 27日
派遣プログラム Name of Program	▪HUSA □USAC □UMAP	
留学先大学 Host University	ユヴァスキュラ大学 (国名/Country: フィンランド)	
所属学部・学科等名 School/Graduate School at Host	Faculty of Education and Psychology	
在籍身分 Status at Host University	交換留学生 (Exchange Student) (ex. Exchange Student, Special Auditing Student)	
留学期間 Period of Program	2019年 8月 1日 ~ 2020年 5月 31日 (YYYY/MM/DD) (YYYY/MM/DD)	

1. 留学するまで / Preparation for the Program

留学への志望動機・ 派遣先大学を希望した理由 Purpose of Study / Reason of Host Choice	留学先にフィンランドを選んだのは、昨今、資本主義の次におとずれると考えられるイデオロギイや体系が専門家によって議論されるなかで、フィンランドがもつネーション・ヴィジョンの可能性に興味を抱いたからである。またユヴァスキュラ大学を希望したのは、大学院から専攻した教育学の知識不足を教育の優れた地で学ぶためである。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?) Commencement of Preparation for Application	交換留学を考え始めたのは、記憶では大学一年生の頃である。学部時代は、専攻が英文学であったということもあり英語の学習には真剣に取り組んだ。実際に留学が叶ったのは大学院修士二年生の時であるから、かれこれ五年間は知らず知らずのうちに留学準備をしていたということになるか。
事前準備について(どのような準備をしたか、しておけばよかったか) Preparation Completed Prior to Study Abroad	事前準備については、大学の指示に従って早めに行動した。最も重要視したのはビザの獲得であった。渡航までにあまり時間がなかったからである。後は、保険への加入と留学先の大学の指示通りにウェブ上で必要書類を作成した。とくに英語に関して学び直すということはしなかった。心残りといえば、出発前にもう少しフィンランド語について学習する機会を増やしておけば良かったという点であろう。

2. 渡航について / Visa and Flight Information

ビザについて Visa	ビザの種類 / Visa Type : Finnish Residence Permit	
	ビザ申請先 / Location of Visa Application : フィンランド大使館 (東京)	
	提出書類 / Required Documents : ウェブ上で作成した。	
	手続きに要した日数 / Duration of Visa Application Process : およそ4か月間	
その他必要な事前手続き Other Required Procedures	フィンランド大使館 (東京) に行く際は、事前に大使館のウェブページにあるメールアドレスにメールをしてアポイントメントを取る必要がある。	
出国年月日 / Date of Departure	2019年 8月 3日 (YYYY/MM/DD)	
経路 (往路) / Route (Outward)	福岡→上海→ヘルシンキ	
現地での出迎え Pick-up Service	□有/Yes (大学関係者/Univ. Staff ・ その他/Others) ▪無/No	
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容 Orientation, Period, Contents	▪有/Yes □無/No	有の場合 期間/Period : 2019/8/5 - 2019/8/10 (If Yes) 内容/ Indicate Content Covered during Orientation オリエンテーションは上述の期間以外にも数回あり、主に大学のポータルサイトの使い方。
帰国年月日 / Date of Return	2020年 3月 21日 (YYYY/MM/DD)	
経路 (復路) / Route (Return)	ヘルシンキ→成田→新千歳	

3. 留学費用について / Expenses

内訳額 / Expenses	総額 Total Amount		1,159,126	円/yen	
	内訳 Details	渡航費（往復） / Flight Ticket (Round Trip)		172,280	円/yen
		ビザ申請手数料 / Visa Application Charge		36,700	円/yen
		予防接種費用 / Immunization Charge		0	円/yen
		保険料 / Travel Insurance		56,500	円/yen
		教材費（授業料以外の学費） / Learning Material (Extra Tuition Fee)		0	円/yen
		宿舍費（住居費） / Accommodation Fee		278,146	円/yen
		光熱費 / Utility Cost		0	円/yen
		食費 / Meal Cost		300,000	円/yen
		通信費（インターネット・携帯） / Internet, Phone		15,500	円/yen
		交通費（宿舍～大学間） / Transportation (Accommodation ~ Univ, Campus)		0	円/yen
		交際費 / Social Expenses		80,000	円/yen
		その他 / Others（旅行費） （その他生活費）		150,000 70,000	円/yen 円/yen 円/yen

4. 授業・修学について / Courses and Study

授業の概要について（カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等） / Brief Description of Courses (Curriculum, Program, Registered Courses, Study Hours, Course Style)	The Intensive Finnish language course, Academic English Communication 1, Academic English Communication 2, Education in Finland, Varieties of English, Gaining confidence in English 上述したのは履修登録した科目である。履修形態は授業によって多種多様であった。日本と比較すると全体的にディスカッションを行う時間が多い。
単位互換希望の有無 / Credit Transfer from Host to Home University	<input type="checkbox"/> 有/Yes <input checked="" type="checkbox"/> 無/No
授業・勉強についてのアドバイス（留学前の履修、留学中、単位取得等） / Advice for Class and Study (Before and During Study Abroad)	留学先の大学で履修する科目は、渡航前にウェブ上で登録するように求められるがそれが最終決定ではない。渡航後に登録科目を変更する機会があるし、実際に授業が始まってから授業を増やしたり減らしたりすることも容易にできる。ただ比較の一つの授業内容が重たいのでその点は要注意である。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など） / Difficulties and Challenges Faced in Classes Different from Japan (Teaching Style, Relationship with Professors/Lecturers)	授業形態は日本より多種多様で面白い。なかでも印象に残っているのは、授業中に学生間であるトピックに対してのディスカッションが始まったかと思うと、教授は一切やめさせる素振りもなく自身が参加するのでもなく終始聞き役に徹していたのである。これは日本ではまったく考えられないことである。日本であればなんとかしてその日の授業のノルマをどうにかして達成しようとするものである。学生たちもアクティブであるし自分の専攻分野以外の知識も多分に持ち合わせているのである。こうした授業が成立するのも教授と学生の距離がとて近く、関係性がマイルドであるということも挙げられるだろう。上下関係がそこまでみられないという特徴がある。

5. 生活等について / Lifestyle			
(1) 留学先の住居について / Accommodation			
住居の種類 Type of Accommodation	<input type="checkbox"/> 大学の寮 / University Dormitory <input type="checkbox"/> アパート / Apartment <input type="checkbox"/> その他 / Others ()		
住居の広さ Size of the Room	約/approximately およそ 40 m ²	同居人の有無 Roommate(s)?	<input type="checkbox"/> 有 / Yes (3人/People) <input type="checkbox"/> 無 / No
住居に附属する設備 Facilities in Accommodation	<input type="checkbox"/> 電気/ Electricity <input type="checkbox"/> ガス/ Gas <input type="checkbox"/> 水道/ Water <input type="checkbox"/> 給湯/ Hot Water <input type="checkbox"/> シャワー/ Shower <input type="checkbox"/> 風呂/ Bathtub <input type="checkbox"/> 水洗便所/ Flushable Toilet <input type="checkbox"/> 暖房/ Heating <input type="checkbox"/> 冷房/ Cooling <input type="checkbox"/> 台所/ Kitchen <input type="checkbox"/> 食堂/ Dining Room <input type="checkbox"/> 固定電話/ Land-Line Phone <input type="checkbox"/> インターネット/ Internet <input type="checkbox"/> その他/ Others ()		
住居費 Accommodation Fee	1ヶ月当たり/ per month 251.62 ユーロ	(現地通貨/ local currency)	約/ approximately 31,000 円/yen
留学先での住居全般に関する アドバイス Accommodation Advice	ユヴァスキュラ大学に通う学生は、主にコースカコルテポーヤというどちらかの大学の寮で暮らすことが多い。私のお勧めはコルテポーヤである。コースとは違い食堂が完備されているし、住人同士の交流が盛んでたくさんの友人をつくるチャンスが多いからである。		
(2) 医療について / Medical Care			
保険の加入先 Insurance (Who Designated)	<input type="checkbox"/> 本学指定の保険 / Hiroshima University <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 / Host University <input type="checkbox"/> その他 / Others ()		
保険の補償内容 Insurance Coverage	補償額 / Coverage 死亡 / Death 10,000,000 円 / yen, 入院1日 / per day of Hospitalization 円 / yen その他 / Others ()		
留学前後での予防接種の必要の有無 Immunization Requirement	<input type="checkbox"/> 有 / Yes (種類 / Acquired Immunizations : , 医療機関名 / Location of Immunization :) <input type="checkbox"/> 無 / No		
留学先国の医療事情 (日本と比較して) Difference in Medical Service (Compared to Japan)	現地の人に聞くと、フィンランドでは国家試験のレベルが高いため、医者が不足しており、ロシアやスウェーデンから医者を派遣してもらうこともあるそうだ。そのため公立の病院や歯医者さんでは、私立に比べて医療費は安い診療してもらうのに一か月から三か月待つというのはごく一般的に起こることであるそうだ。一方の私立の病院や歯医者さんに関しては、すぐに診察してもらうことも可能だが、診察料は高いということである。		
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと Healthcare and Hygiene	既に留学先国の医療事情 (日本と比較して) のところでも書いたが、フィンランドの医療事情は優れて良いものであるとは言えないようだ。そのため、持病のある人はしっかりと日本から処方された薬を持参することが必要だろう。また、歯医者さんについても実際の診療までの待ち時間を考慮すれば、渡航前に日本で検診や治療を行うのが賢明といえよう。		
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと / Dangerous Situations and Locations Encountered, Possible Advice for Risk Management			
私の滞在拠点であったユヴァスキュラという街は、学生街ということもあってかなり治安が良かった。だが、都市部のヘルシンキでは私の友人が財布を掏られるということがあったので油断は禁物である。また私自身はポーランドのグダニスクという街で財布を掏られた。まったくそのことに気が付かず、宿泊していたホテルに帰ってからチャックの空いたカバンを見てその事実に気が付いたほどだった。とくに海外には掏りを生業にしているひとがいるから注意が必要だ。			

(4) 食生活についてのアドバイス / Food – Related Advice	
私は日本ではほとんど自炊をしていなかったため、フィンランドに渡航してからというもの簡単な料理すら習得するのが大変であった。日本と比較すると外食の値段や趣向品の価格がかなり高く、吉野家などの大手牛丼チェーン店なども存在しない。奇跡的にマクドナルドの値段は日本のそれとさほど変わらなかった。しかしながら、毎日をマクドナルドで乗り切るとなるとなると難しいものがあるのも事実である。簡単な料理スキルは日本で磨いてから渡航することにしよう。	
(5) 気候・服装についてのアドバイス / Advice on Local Climate and Clothing	
衣類は日本から持ち込む量を最小限にすることをお勧めする。行き帰りの空港での持ち物の超過による出費に至ってしまうケースが多いからである。フィンランドでは、セカンド・ハンドの文化がかなり発展して根付いており、安価にTシャツから冬用のジャケット、冬に履くブーツの果てまでを簡単にそろえることができる。また、帰国の際は、スーツケースに入りきれない衣類をサイトで売ったり、処分したりして工夫することが理想である。	
(6) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む） / Available Resources (Library, Cafeteria, Campus Wi-Fi, etc.)	
基本的に学内やキャンパスでは無料でスピーディーなWi-Fiを使用することができる。コルテポーヤという学生寮にはレントッカという学習スペースがあり、無料のWi-Fiや学生が使用することができる無料のパソコンが設置してある。私の滞在したコースという寮にはレントッカのような共有スペースはなく、Wi-Fiを自身で契約する必要があった。幸運にも私の場合はシェアメイトのフィンランド人が彼のWi-Fiを無料で使い放題してくれた。	
(7) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？） / Communication with Local Students and People (Available Opportunities?)	
私はとにかく現地の学生や人たち、他の国からの留学生と遊んだり、議論したり、お酒を飲んだり、踊ったり、旅に出たりした。ユヴァスキュラ大学には比較的ヨーロッパからの留学生が多く、毎日が多国籍で国際色豊かで大変面白い。私は、ひときは街の有名な名人にまで上り詰めた。とくに仲の良かったイタリアの友人からは自身のイタリアの家にホームステイをしてもよいという誘いを受けた。ちょうどコロナと重なって行けなかったが、将来的にはイタリアに行くつもりだ。	
(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと / Care and Attention regarding Customs and Manners	
もちろん習慣やマナーの違いは多く存在する。しかしながら、人間は等しく人間である。日本人が欧米に出たから行動様式や習慣の全てを西洋風にしてしまうのは何か違うし、また逆の場合も然りである。我々が西洋の文化に興味があるように西洋の人びとも東洋の文化に関心を抱いている場合も多い。人類学者のフランツ・ポアズの文化相対主義を根底に、お互いの文化を尊重し合い、お互いに妥協点を見つけてながら生活することが大切だ。巷のマナー本よりも実践あるのみだ。	
(9) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの / What Should You Bring? What Should You NOT Bring?	
私は日本にいる時でも、海外に出る時でも生粋のミニマリストである。そのためこの項目で書くことはあまり一般向けではないかもしれない。私が勧めるのは、普段学校に持っていくようなリュックサック一つに荷物をおさめて旅をしろということである。日常において思ったほど物は必要ないのである。とりわけ旅行中にスーツケースなどをいくつも持っているとなれば、何か気になる出来事に遭遇しても荷物を守ることに意識がいかってしまい、大事な機を逃すかもしれないからだ。	
(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス / Other Useful Information and Advice about Life Abroad	
フィンランドのある北欧圏ではいわゆる夏のシーズンというのは全体を通して短い。冬が長く、その時期は日照時間がかなり短い。そのため生活リズムや睡眠時間、バイオリズムなどがくずれまわってしまう。うつ病になってしまったり、メンタルを病んでしまう人が多いというエビデンスもあるほどだ。とくに寒くて厳しい冬場の季節を乗り切るための工夫としては、ビタミンDのサプリメントを毎日飲むことである。サプリは薬局で簡単に手に入るものでぜひとも参考に。	

6. 帰国後の進路について / Your Career After Study Abroad	
卒業予定年月 Expected Graduation Month and Year	2021年 / year 3月 / month (当初の卒業予定年月 / Expected Month and Year before Studying Abroad 2020年 / year 3月 / month)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由 Reason for Extension of Graduation Month and Year?	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため / Participation in HUSA during 4th Year <input type="checkbox"/> 単位不足のため / Amount of Credits <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため / In order to graduate as a “new” graduate ▪ その他 / Others (具体的に / Specific reason: 修士2年次に留学したため。)

<p>現在の状況および今後の予定・進路等 Current Situation, Plan and Career</p>	<p>現在の状況としては、札幌の実家でコロナの終息を待っているという状況である。今後の予定は、コロナがおさまり次第広島に戻って修士論文を完成させるつもりだ。その後の進路としては、博士課程後期に進学して博士号を獲得したい。博士課程後期では英文学を専攻しようと考えている。精力的に論文の執筆や発表をおこなっていきたい。</p>
<p>就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫 Pre-arrangement by yourself for your future job hunting, acquisition of credits of required courses and practicum, etc.</p>	<p>就職活動や留学前の単位習得、および教育実習等に関しては、早め早めに計画的に行うことをお勧めする。一方で、留学に行ったことで海外で働く人と出会い、就職の方向性や将来的なビジョンが変化する場合も往々にしてあることも確かだ。そのため留学を考えているのであれば学年の若いうちに行き、あちらで吸収したものを踏まえて進路選択をするというのが理想であるかもしれない。</p> <p>僕自身の話をすれば、学部時代にすでに教育実習を終えて中学校と高校の英語の教員免許も取得していた。また、結果としては大学院で交換留学をすることになったが、留学開始までには大学院で必要な単位は修士論文を残すのみでほぼ取り終えていた。なので、留学先の大学では帰国後の単位交換をあまり気にすることなく自分の興味・関心のまま好きな授業に参加することができた。</p>

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等 / Useful Books and Website for Study and Life Abroad

書籍、サイト名 Name of Book or Website	詳細（出版社、URL等） Details (Publisher, URL etc.)	コメント Comments
特になし。		

8. 後輩へのメッセージ / Message for Outgoing Students who Desire to Study Abroad

私は、後輩という言葉が好まないの、あくまで同志に向けてメッセージを贈る。若いうちに世界の広さを、その身をもって体験するということはとても大切である。私が学部時代の恩師に言われた言葉がある。「留学をしないと、人生が普通になってしまうよ。」人生は長いようで短い。儚い人生のなかで世界の存在を知り、世界中の友人を持つということがいかにその後の人生に重要なことかを教えて頂いた。ぜひとも世界の全ての国に友人をもってほしい。一握りのエリートだけではなく、万人が世界に旅立てる時代に生まれ、人類と対話できる時代に生まれたのだから。

9. 自由記述（日本語・1,200字程度） / Feedback (English about 600 words)

留学を終えての所感として、まず心に浮かぶのはフィンランドへの憧憬である。僕が世界中の友人たちや仲間たちと過ごした時間や、共にみた景色・風景は、いわば僕の「心の故郷」として、或いは「心のよりどころ」として息づいている。時々、思い出や記憶に思いを馳せ、心の旅をする。その度に駆け巡るのは、僕が友人たちに綴った「世界中に友達ができる。そのたびに僕の中で世界が小さくなるように感じる。地球は確かに大きいけれど僕らは近い。またどこかで会おう。」という言葉である。その都度、過去の凝縮された全ての時間と記憶が一瞬にして引き込まれ、ちょっぴり切なくて、同時になんだか妙に心強くて誇らしい気持ちにもなる。

留学のひとつの成果としては、先述したような「世界の仲間」をもったことが挙げられる。加えて、その仲間たちとの学術的な議論や日常的な対話を通して様々な文化や価値観に触れた経験が、時間をかけて反芻されて英知として変化を遂げることも含めることができるであろう。また、留学前と比較して成長した点としては歴史を学ぶ意義を深く認識したことである。もちろん歴史書を読む事も大切だが、実際にその地を歩いて歴史を学んだり、国を超えた様々な歴史認識に触れることが大事であると実感した。

僕が留学期間中に最も印象に残った体験・出来事というのは、ポーランドへと旅行した際にアウシュヴィッツ強制収容所を訪れたことである。社会学的にみればすっかりダークツーリズムと化した観光地といった感じがした。しかし、その土地に残る怨念のようなものはいくつもの時代の変遷を経てもそこに確かな記憶として染みついている。

アウシュヴィッツ博物館の館長が生前に残した「悲しむより、考えてほしい」という言葉の意義は大きい。どうしてノーベル賞を数多く受賞するほどインテリジェンスが高く、文化レベルも高いひとたちがこれほど非人道的なことをなし得たのか。正常と異常の境界線はじつに曖昧である。そして人びとは、容易に時代の「空気」に流されてしまうようだ。

当時、アウシュヴィッツでは連行された強制労働者に対して彼らを虐殺するという名目は伏せられていた。そのため、多くの人びとが殺されたガス室にはシャワーヘッドが取り付けられ、消毒のためのシャワーだと偽って実際には密室で殺虫剤が撒かれていた。加えて、労働者たちを安心させるためにガス室の手前に各々の洋服を掛けるスペースを用意しておいて、さもシャワーを浴びてまた帰ってこられるかのように演出していたとのことである。僕はこの箇所に「人間の狂気」のようなものを感じた。そもそも人間が人間を虐殺するという異常なことをしているのに、そこでは周到に他人を思いやって安心までさせようと完璧といってよいほどの準備がなされているからだ。

後にナチス親衛隊のアドルフ・アイヒマンへの調査から、収容所での虐殺は完全なる分業体制であったからなし得たということが分かるが、その過程に存在する緻密さや、周到な計画性のなかには人間のひた隠しにされた本性がうかがえてならない。我々は次の世代にこうした歴史的事実を伝えるとともに、常日頃から人間存在について考える義務があると思う。その意味でアウシュヴィッツにいま残る土地の記憶を風化させてはならないであろう。

僕は将来、英文学者として自分の研究を続けたいと思っている。将来の研究のなかで今回の留学での経験や成果が、僕が未来に向けて紡ぐ文章となり、僕の発する「声」となり、そのなかに何かしらの「かたち」をもって反響し、多くの人たちと対話ができるきっかけとなれば幸いである。もし夢が叶えば、歴史から学び、またそれを多くの世代とともに考える学者として社会に、未来に貢献していきたい。



注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。 / This report and its contents will be uploaded on website of the HUSA and Hiroshima University, browsed at the office and used for information regarding study abroad at Hiroshima University in order to provide information to students who desire to study abroad. (Student name and student number are not published). If the report and its contents are included inadequate contents to be published, it would be deleted or amended it by International Exchange Group.